

川崎医療福祉大学 同窓会報

第3号

平成10年9月25日

発行 川崎医療福祉大学同窓会

〒701-0193 倉敷市松島288
川崎医療福祉大学同窓会事務局
☎・FAX (086) 462-8541



倉敷子ボリ公園



“大学もがんばっています”

学 長 江 草 安 彦

同窓生のみなさん、お元気で御活躍のこととお慶び申します。本学も開学8年目を迎え、いよいよその内容の充実にむけて精進を重ねているところです。

本年3月の学部卒業504名、大学院修士過程修了45名。これで川崎医療福祉大学の同窓会員は2,263名となりました。わが国の医療福祉界で大きな位置を占めてきつつありとの感を深めています。

入学する学生も、全国各都道府県から本学を目指してまいります。卒業後の活動も全国各地で展開されています。まさに、地域的な大学ではなく、全国区の大学であります。

本年の卒業生は、その96パーセントが就職という快挙を達成しました。年度を越えての就職も続いています。この成果は本人の努力もさることながら、本学関係者、ことに同窓生のみなさんの応援の賜とよろこんでいる次第です。

本春は、第1回の大学院修士課程修了45名が、学窓を巣立ったのですが、同時に念願の博士後期課程に15名の学生の入学をみました。開学8年目を迎えた本学が、僅かな年月のうちに、大学院の博士後期課程までの教育・研究体制を整備することができたこと。ことに、優れた教授方を迎えることができたことなどによるものです。大学は学部教育、さらに大学院教育へ発展して、初めて大学らしい大学となると申します。川崎医療福祉大学が一段と飛躍する段階になったということです。

私たちはこれに満足することなく、教育・研究の一層の充実を図り、21世紀のわが国の保健・医療・福祉の水準向上という本学に課せられた役割を果たすべく努力を傾けたいものです。

同窓生のみなさんの一層の御協力、そしてみなさんの御発展を祈っています。



試練を克服する人 になって頂きたい

副学長

上田 智

卒業おめでとうございます。本学の卒業生としての誇りをもって社会で活躍されている皆さまに声援を贈りたいと思います。

皆さま方は4年間の在学中に本学の建学の精神を学び、立派な社会人に成長された様子は卒業式当日の自信に満ちた、しかも輝く瞳で充分証明して下さいました。

実社会は想像以上に辛いことの試練を受けるものです。それは丁度学生時代に学年末試験をパスするのと同じ試練であり、社会では避けて通ることの出来ない課題であります。自分にとって辛いことの課題を提示されたら、自分が試されており、その試練を克服することにより、自分自身の評価につながるもので

あると理解して納得し、試練を克服する努力をしていただきとう存じます。

建学の精神の第一は人をつくるとあります。福祉の精神は他人のためにお役に立つ人間でありたいと願う心により支えられております。人をつくるとはそのような人になることを願って本学の教育の基本として設定されたものです。

本学も開学8年目にして、大学院博士課程が認可され、一人前の大学として世間で評価されるお膳立ては出来上がりました。次の課題は大学の内容充実であります。名実ともにわが国の第一級の大学施設として高く評価されるよう同窓生の皆さまの御協力と御支援をお願い申し上げます。これからは社会人入学として大学院で学ぶ人が一般的になりつつあります。同窓生の皆さまの中から、卒後研修として大学院でもう一度勉強したいと希望する人材の一人でも多く出てくることを望んでおります。



芥子種のように

医療福祉学部長

関谷 真

学校法人川崎学園の発展の流れのなかで、平成3年4月に川崎医療福祉大学は開設されました。2学部6学科の当初の状況は平成7年の保健看護学科及びリハビリテーション学科の増設により、さらに総合大学の性格を強めています。しかし、当初から、建学の精神となっている「人間をつくる」、「体をつくる」、「学問を究める」のモットーは、学園創設以来変わらず学園の教育の理念でもありました。

現代に於ける科学・技術の発展は目覚ましい。しかし、同時に誰でもがその恩恵に浴するとしても、誰でもが科学者であったり、技術者であったりするわけではないので、この

社会の発展の主体となるものは誰なのかはつきりしません。最近では、環境問題や福祉思想の拡大などに見られるように、共同社会としてその中で、科学・技術や障害を負った人々への配慮の技術などのあり方が問われています。一人一人は自分の実力を発揮できる自由を持っていますが、それは他者への配慮という人間の生き方の根本を貫く共感的な社会であるはずだと言うことにわれわれ現代人は気づいたといえましょう。

「教育は100年の計」といいます。教育は誰でもが受ける権利を持っているのですが、教育の効果はいつ現れるかは人によってもまちまちですし、本当の教育効果は、自分が学んだことが身に付くことですから、いつ、どこでその効果が自分に現れてくるのか本当の所分からない。技術や知識量は測れて、増大するように見えますが、自分の身に付いているかどうかは、見当はつきにくいのです。自

分が他者と世の中で接しつつ、事件に巻き込まれたり、分り明かさないことにおつかつたときに、身についたものは自分のなかからじわっと自ずと出てくるものだと思います。その時はよく分からないので、あいまいだから、教育は百年の計と言われるのでしょうか。教育の根深さを示しています。

医療福祉大学も現在は、大学院も併設される大きな木に成長しています。卒業生も4期生まで大学を巣立ち、2000名以上の社会人を世に送っています。聖書にある言葉ですが、「神の国は何に似ているか、何にたとえようか。それは、芥子種に似ている。人がこれを取って庭にまくと、やがて育って木になり、

その枝には空の鳥が巣を作る」。ここでは、信仰のことを述べるつもりはないのですが、心の中に育つもの、こころを育てるといのは、まいた種が成長することでしょう。卒業生のみなさんは、時に芥子種そのものであるし、その枝にきてこのみを食べることで巣立っていった鳥でもあるのかもしれませんが。つまり、大学は最初は芥子種でしかないのですが、卒業生のみなさんと共に大きく広くなって枝を伸ばして行く。

これからも大学は充実し、発展していくことでしょう。同窓会はそういう発展の一つの大きな歩みの印であろうと思っています。



勉強していますか？ 生涯、勉強ですよ！

医療技術学部長

守田 哲朗

同窓生の皆さん、お元気でしょうか。それぞれの職場、あるいは家庭にあってご活躍のことと思います。

この度、“同窓生に期待する”といった内容の原稿依頼がありました。そこで月並みではありますが、生涯学習について書くことにしました。

皆さんの在学中のカリキュラムは、講義偏重ではなく、実習や演習、特に病院や福祉施設での実習に力を入れるなど、他の大学の追随を許さないほどの充実さを誇っていました。卒業後しばらくは、たとえば病院ですと、チーム医療のスタッフとして活躍できたでしょう。しかし、この状態は、本人の努力なしではそう長く続きません。

最近の疾病構造には著しい変化がみられて

いますし、医学・医療の進歩も目を見張るものがあります。各専門職種での学問や技術の進歩も同様です。皆さんは、うっかりしていると時代に取り残されてしまいます。厳しい生涯学習への取り組みが必要なわけです。

医療従事者向けの生涯学習は、今日、各職種の学会や団体の主催する研修会が企画されていますし、各大学での公開講座のテーマにも選ばれています。これらは、あるテーマについてすぐれた企画のもとで開かれています。受講後直ちに実践に役立つ内容であるかとなると、必ずしも十分とはいえないようです。

今日、生涯学習への関心は、どの職種でも盛り上がっています。テーマの選択、演習の増加などに心掛け、時代の要求に適った生涯学習を企画してほしいと思います。幸いに、生涯学習の講師は、母校にたくさんおられます。いろいろとお手伝いしたいので、遠慮なく相談してください。

同窓生の皆さん、これからも各職場で実践に役立つ生涯学習に励まれ、ますますの成長と活躍を期待して結びとします。



同窓会長より、 会員の皆様へ

同窓会会長

尾田 幸夫

川崎医療福祉大学同窓会の会員の皆様お元
気でお過ごしでしょうか。各方面で御活躍の
ことと拝察いたします。

今年の3月には第4期生を会員にお迎えし、
現在2000人の同窓生が卒業後、各方面にて自
分なりの道を歩まれていらっしゃると思
います。

さて、卒業後同窓会にご入会いただいたわ
けですが、同窓会に入会したらどうなるんだ
ろう、入会金を納めたけれど何かいいことあ
るのだろうか。などとお思いの方が必ずおら
れると思います。母校の歴史がまだ浅いた
めにそのようなことはまだまだこれからの話、
という考え方もあるかもしれませんが、来年
度の5年に1回行なわれる総会を前にして本
会の存在理由や活動内容を（勿論会則には明
記されている）概念的なものからさらには具
体的に充実したものにしていかなければなら

ないと考えております。（しかし、実際問題
として運営にあたっているメンバーも私も含
めてそれぞれの道でやるべきことをもって
いるということを中心とめておかねばなりませ
ん。）

本会の運営機関として事務局、渉外調査局、
企画局があり事務局は本会の窓口として、渉
外調査局は会員名簿の調査、管理を、そして
企画局は同窓会報の作成などをみなさんと関
係している部分において行っております。

例えば、同じ母校を卒業した者同士です
から立场上関係するものなどがあれば、卒業
年度が違って情報交換してみればいい事
があるかもしれませんし、行方不明の友人が
いて、住所変更届のハガキを出していれば見
つけることができるかもしれません。

要するに、同窓会のメインは会員である
みなさん方であり、同窓会をうまく利用
していただき、また様々なことを提案して
いただきたいと思います。

大学内に同窓会本部がありますのでみな
さんのご意見をおまちしております。

それでは、今後の皆様の御活躍御健闘
をお祈り申し上げます。

川崎医療福祉大学同窓会新役員名簿

会 長	尾田 幸夫(体育1)	市川 由夏(福祉1)	能勢 幸子(福祉2)
副 会 長	片山 敬章(体育1)	納所希与子(福祉1)	水子 学(心理1)
書 記	◎曲田 美枝(心理1)	企 画 局 ◎杉森 紀与(感覚2)	本谷多加栄(心理2)
	難波 弘子(心理1)	伊藤 博一(体育1)	安達 博史(情報1)
	平川 美恵(感覚2)	津田 和美(栄養1)	浅野 展子(情報2)
会 計	◎片山 敬章(体育1)	廣田 佳子(感覚2)	張田 陽子(感覚1)
	明石眞由子(心理1)	鈴木 啓子(福祉3)	杉森 紀与(感覚2)
	坂本 恭子(体育1)	川崎 賢紀(感覚3)	坂本 恭子(体育1)
	橋本 直子(感覚2)	各科理事 萩野 則子(福祉1)	小林 隆史(体育2)
	梅田みのり(体育3)	有田 千絵(心理1)	高橋 信悟(栄養1)
事 務 局	◎銅山 紀江(栄養1)	河田 健(情報1)	坂井田昌子(栄養2)
	安達 博史(情報1)	川角 孔美(感覚1)	
	赤松 康予(栄養1)	伊藤 博一(体育1)	◎は各局の代表者
	佐藤 路子(福祉3)	津田 和美(栄養1)	3期生、4期生の評議員はまだ決
渉外調査局	◎能勢 幸子(福祉2)	黒瀬 正人(福祉1)	まっています。
	評 議 員		

各局からの報告

事務局

*昨年度の活動内容

まず最初に、同窓会室の場所ですが、川崎医療福祉大学本館 8 階8027演習室をお借りしています。

日頃、事務局では、同窓会室に備え付けている(留守番)TELとFAXの対応を定期的に行っています。昨年度はパソコンを設置いたしました。

*今年度の活動予定

同窓会会員との交流の窓口として、インターネットを開始する予定です。また、ホームページの開設、Eメール等の利用により、同窓会会員との情報交換を活発にしていきたいと思っています。

♥お知らせ♥

郵便番号の7桁化に伴い、同窓会の郵便番号が変更しました。新しい郵便番号は、〒701-0193 となりましたので、よろしく願います。

渉外調査局

*昨年度の活動内容

渉外調査局では、平成9年9月に、第3期卒業生単年度版名簿を作成し、第3期卒業生及び学園・大学関係者の方々に送付しました。

昨年度から、今後、同窓会員の増加を見込み、名簿の作成を下記の業者に委託し、発行することになりました。業者名は下記のとおりです。

株式会社 関西廣済堂
本社 〒560-0036 豊中市蛍池西町2-1-1 ☎06-855-1100(代)
西日本営業所 〒700-0985 岡山市厚生町1-11-18 ☎086-227-3339

現在までに発行した名簿は、大学の同窓会室(本館 8 階)及び事務部学生課(本館 2 階事務室)、就職課(本館 7 階)に保管されています。大学を訪れた際はご利用いただき、会員間の交流等のきっかけにいただければと考えております。

*今年度の活動予定

平成10年度は、第4期卒業生単年度版名簿の

発行を予定しております。今年度までと同じく、発行した名簿は第4期卒業生及び学園・大学関係者の方々に送付する予定です。

*渉外調査局からのお願い

現在、渉外調査局では、平成11年に第1期から第5期生の同窓会員を掲載した総合版名簿の作成を計画しています。

その総合版名簿の発行に向けて、より正確な名簿を作成するために、現住所、帰省先住所、勤務先及び結婚等により姓に変更がございましたら、お手数ですがその都度、名簿の最終ページにつけておりますはがき若しくはFAXにて、ご連絡下さいますようお願い申し上げます。

会計局

*昨年度の活動内容

会計では、第3期卒業生の方に川崎医療福祉大学同窓会のご案内をさせていただきましたところ過半数の413名のご賛同をいただきました。

また、平成7・8年度の決算報告および平成9年度予算案は平成9年10月26日に開催されました定例会において承認をいただきました。

*今年度の活動予定

平成10年度は、第5期生の方への川崎医療福祉同窓会のご案内を予定しています。

企画局

*昨年度の活動内容

昨年度は同窓会報第2号を卒業生の皆様に送付させていただきました。また、第4期卒業生への記念品としてテレフォンカードを作成し、同窓会より、送らせていただきました。

*今年度の活動予定

今年度は同窓会報第3号の発行並びに第4号の作成をするとともに、第5期卒業生への卒業記念品として毎年恒例になってしまいましたテレフォンカード以外の記念品をお送りできればと思っております。

同窓生の声「私を勇気づけた上司の一言」

「強くなれ！」

感覚矯正学科(言語)2期生

藤本 憲 正

私は小難しい四文字熟語でも何でもないこの言葉に「どういう意味？」と自分なりに考え続けたことがある。結論から言うと、相手と比較して自分との強弱を計るのでなく、時には妥協する強さ、言い訳しない強さ、愚痴らない強さ、損得考えない強さ、負けることができる強さ、恥じる強さなど、このような強さを経験して初めて人間としての本当の強さ、つまり精神的な強さが備わるのだと年齢を重ねるごとにわかってきた気がしました。当時14歳だった私は上司ではなく、学校の先生に友達と喧嘩して説教を受けた時言われたこの言葉に、まったく意味すら理解していなかった。社会人の今、こんなこと当たり前だと思っても実はなかなか実行するのは難しいと感じている。まだまだ半人前だと思う。このごくありふれたしかし深い言葉に勇気づけられ元気づけられ励まされ、今後も頑張っていきたいと思う。



「無 題」

医療福祉学科3期生

橋本 武 生

私が勤めている老人保健施設は昨年8月にオープンしたばかりです。この施設の相談員になって幾月が流れましたが、勇気づけられたことは多々ありました。しかし、それは上司ばかりでなく職員の1人1人からの言葉であったり行動でした。だから私はこれであると限定したくなかったので、「無題」とさせて頂きました。

大学を卒業し、開園準備段階から参加して今までつらかったり、楽しかったりしたことは何度もありましたが、上司も含め職員が一丸となってお互いを励まし合い、助け合ってきました。

こういうことは他の職場ではなかなか体験できないことだと思います。ですから私はこの施設に就職できて、本当に良かったと思うと共に、

良い上司、良い同僚に恵まれてもっともっと自分を成長させていきます。



「“たら”なしの人生」

医療福祉学科3期生

藤川 幸 治

私も御津町社会福祉協議会に福祉活動専門員として勤務し、1年半が過ぎようとしています。これまで何もかもが新しいことの連続であったように思います。

幸い職場にも恵まれ、周囲の方々から人生訓ともいべきお言葉をいろいろいただきました。表題の言葉がその1つです。

つまり、「あの時～していたらよかった」と後悔するような生活は送らないよう、日々大切に過ごすように、という意味です。

新人なので、仕事に終われる毎日ですが、あとになって後悔することのないように、地域住民に最も身近な「社協マン」を目指して、前向きにチャレンジしていく姿勢を忘れぬよう、一歩ずつ進んでいこうと思います。

「笑顔を絶やさずに」

臨床心理学科3期生

中 脇 泰 典

大学を卒業してから一年半が経とうとしています。なんだか、アッという間に一年半が過ぎようとしているのですが、以前に比べて何も変わったような気がしません。

私は重度痴呆デイ・ケアで痴呆の方のお世話をさせて頂いています。就職した後の私にとって毎日が新しく、勉強であり、随分と悩むこともありました。その中で上司である婦長、また、他の職員の方々の笑顔には勇気づけられました。笑顔を絶やさずに接する姿から、その方たちを受容することの重要性を学んだような気がします。

この一年半、短いようで長く、また、「アッという間」の中に沢山のことがぎゅっと詰まった、大きな一年半でありました。

もしかしたら私自身、何か変わったのかもしれませんが。



「職場にて」

医療情報学科 3 期生

浅山 茂樹

現在、私は、救急病院にて、医療事務をやっております。仕事内容は、主に受付と会計なのですが、就職してから現在にいたるまで、仕事のミスの一つずつ減らしていこうという小さな目標で、今まで比較的のんきな社会人をしておりました。ところが、忘年会において、医療課長に、私の二人の先輩が、今年の夏までに仕事をやめるので、引き継ぎを行わなければならないと聞かされました。

私は、今年の夏までに、二人の先輩の仕事の引き継ぎが行えるように、気持ちを切り替えていかなければならないと思いました。



「自分を一番に 考えてね」

感覚矯正学科(言語) 3 期生

河崎 さおり

初秋の侯、同窓生の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと思います。

さて、今回のテーマについては、私は主任の先生から頂いたものです。就職後半年程から周囲の要求も以前と変わり始め、それにうまく立ちまわる事ができずに不安や葛藤ばかりが心を占めていました。その内、体調まで崩れ、途方に暮れている時に先生から優しい言葉を頂きました。「周りのことばかり気にせず自分を一番に考えてね。変えて気持ちが楽になることがあれば交渉してあげるよ。」というものです。それまで気付かざりましたが、温かく見守ってくれる人がいたことに、以来支えられて何とかやってこられた様に思います。

年一度の会報の原稿がこの様なものになり申し訳ありません。

末筆ながら、皆様のご多幸をお祈り申し上げます。



「歓迎の雪が 降ってきました」

感覚矯正学科(視能) 3 期生

愛宕 恭子

私が、金沢医科大学病院に就職してもうすぐ1年半になろうとしています。職場はとても明るい雰囲気、仕事内容はとてもHardなのですが、笑顔でがんばっています。

仕事内容は外来業務の他にORT 4 人のうち1人が1ヶ月交替で病棟業務に当たります。検査内容も豊富なので毎日の仕事が私にとってとても良い勉強になります。

今回、「私を勇気づけた上司の一言」というテーマでとのことですが、就職してから現在までに先輩方にたくさんのことを教わりました。その1つ1つに勇気づけられて、がんばれてきたと思います。

題名の言葉ですが、「勇気づけた一言」というより、とても印象に残っている一言です。

出勤1日目は、もうすぐ4月だというのに雪が降っていました。



「自分のできることを 一生懸命する」

健康体育学科 3 期生

梅田 みのり

昨春卒業し、社会人としての新しい生活によりやく慣れ始めたところです。就職してまもなくは、4年間住み慣れた中庄や仲間と過ごした学生生活をとても恋しく感じたものでした。

その4年間を土台とした日々やり甲斐のある仕事に携わることのできる喜びのなかで、時々生じる迷いや不安を吹き飛ばす上司の一言「自分の今できることを一生懸命する。」この言葉は、仕事に限らず、様々な場面で言えることだと思います。

力不足や数々の失敗はあるけれど、温かい上司や周囲の人々に感謝しながら、自分を磨くことを忘れずに、自分の“できる”ことを増やしていきたいと思っています。

川崎医療福祉大学同窓会ホームページ開設について

このたび、川崎医療福祉大学のホームページの一部に、同窓会のホームページが開設されました。今後、同窓会から発行される会報と同様に、大学の状況や会員の声などを中心にしたページを作成できればと考えております。

現在の大学の状況などもおわかりいただけたと思いますので、時間がありましたらぜひアクセスしてみてください。

ホームページアドレス <http://www.kawasaki-m.ac.jp/mw>

大学のトピックス

川崎医療福祉大学 学生相談室について

川崎医療福祉大学非常勤カウンセラー
川崎医大講師 笹野 友寿

学生相談室は平成9年7月にオープンしました。現在2名の非常勤カウンセラー(笹野、尾島)が相談に応じています。精神科医の笹野が心理面接を担当し、尾島が一般的な相談を担当していますが、厳密に区別はしていません。相談事例の内訳は、6割が心理面接の希望者で、3割が友人関係の悩みでした。複数回来室する人が全体の2割を占めています。相談事例のなかには、カウンセリングによって自分の心の問題に目を向けることができ、「思い切って相談に来てよかった。」と喜んでいただいたケースも多数ありました。

当大学は、将来心理カウンセラー、看護婦、ケースワーカーといったいわゆる“援助専門職”を目指している学生が多いのが特徴です。そもそも援助専門職の人たちは、子供時代に由来する心の傷を抱えている人が多いといわれています。学生相談室は、そういった人たちの心の成長や、新たな自分への生まれ変わりを、少しでも手助けしたいと願っています。

心理教育相談室開設

川崎医療福祉大学附属心理・教育相談室
臨床心理学教授 島田 修

平成9年10月1日、学園当局のご理解を得て、川崎医療福祉大学心理教育相談室が開設しました。場所は高島屋の売店の向い側に用意してあります。医療福祉学研究科臨床心理学専攻学生の臨床訓練施設として、また地域精神保健にも微力ながらお役にたてればと、スタッフ一同、日々つとめております。

ご存知の通り、昨今、中学生の不登校をはじめ、学校内や家庭内における青少年の問題行動がクローズアップされております。

そのために、相談室においても、学校の先生の生徒指導についての相談、子どもの親が家庭でどのように子どもに接すればよいのかといった相談が中心をなしております。

将来的には相談室が成長、発展し、子どものみならず、働き盛りの成人、主婦、老人の心の健康を支えられる相談室を目指しております。

編集後記

初秋の候、謹んでご挨拶申し上げます。

本校同窓会も4期生を迎え、皆様の各分野での活躍の程を時折お聞きしております。

倉敷は街並みも年々変化を見せており、共に我が母校川崎医療福祉大学も大学院博士課程の増設をはじめとして、更なる発展への道を歩んでおります。

今回で、同窓会報も第3号を同窓生の皆様にお届けできる運びとなりましたが、今後、より内容満載のものにしていきたいと思っております。会報へのご寄稿や企画へのご意見等ありましたら是非、同窓会誌係までご連絡ください。

最後に本誌の発行が大変遅くなってしまいましたことをお詫び致し、発刊に際し快くお引き受けくださった先生方、ご寄稿くださった同窓生の皆様に厚くお礼申し上げます。(企画局 川崎、杉森)